Southern Cross

The Japanese School in Perth
パース日本人学校

２０２６　No.8　10月12日発行
Web-site　www.japaneseschool.wa.edu.au
e-mail:　toiwase@jsp.wa.edu.au

3学期が始まりました！

校長　　伊東　俊昭

本日、3学期が始まりました。そして、今年度も折り返しを迎えました。

朝、校内の様子を見て回っていると、子どもたちは笑顔で気持ちのよい挨拶をしてくれました。始業式にも笑顔で参加する姿が見られ、うれしく思いました。皆きちんとした態度で式に臨めていました。

終業式では、「春休みの間、普段なかなかできないことに挑戦してください」と話しました。子どもたちは、この春休みをどのように過ごしたでしょうか。

私は、車でALBANYへ一泊旅行に出かけました。41年ぶりに訪れた町は記憶に残っていたとおり、とても素敵な場所でした。同じ海に面した町でも、西海岸とは少し雰囲気が異なり、海の色も心なしか濃く感じられました。天候にも恵まれ、改めてオーストラリアの雄大な自然や、田舎町のよさ、親しげに話しかけてくださる人々の優しさを感じる旅となりました。

そして、休みの間のもう一つの大仕事は、カイコの世話でした。妻と一緒に近くの大きな桑の木へ行き、柔らかい葉を摘んでは餌として与える毎日でした。桑の実を採りに来ていた子どもたちやご夫婦が、私たちが葉を摘んでいる姿を不思議そうに眺めていました。「なぜ桑の葉を摘んでいるのですか」と尋ねられ、「シルクワームを育てているのです」と答えると、納得したようにうなずいてくれました。本当に伝わっていたかどうかは分かりませんが、そこからちょっとした会話が生まれました。

何かに取り組んだり、新しい体験をしたりすると、それが人との会話のきっかけになることがあります。ALBANYでも、「昔、オーストラリアをバイクで一周したときに立ち寄り、とても気に入った町だったので、41年ぶりに来てみました」と話すと、出会った方々は笑顔で耳を傾けてくれました。

自分の体験を交えて話すと、相手にもより興味をもって聞いてもらえるように感じます。そして何より、昔の記憶がよみがえり、そのときに見た風景や感じた匂い、人との出会いまで思い出せることは、とても幸せなことだと思いました。だからこそ、子どもたちにも、これから様々な体験を重ねていってほしいと思います。

今日、休み中に育てていたカイコの幼虫と繭を学校に持ってきました。子どもたちは、幼虫が黄色い繭へと姿を変えている様子を、どのように感じてくれたでしょうか。まだ繭になっていない幼虫も少し残っていたので、「育ててみたい」という学級に分けました。

幼虫や繭を実際に手に取り、じっくりと観察しながら、幼虫が繭を作る様子、繭から成虫が出てくる様子、成虫が交尾をして卵を産む様子まで、カイコの一生を見届けて欲しいと思っています。そうした観察を通して、生き物の成長や命について考える機会になればと願っています。

さて、校庭の遊具も新しくなりました。子どもたちが、安全に、そして楽しく使ってくれることを期待しています。また、PTAからも様々な遊び道具を購入していただきました。遊びも、子どもたちにとって大切な体験の一つです。子どもたちのためにご支援くださった保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

3学期も、子どもたちがより多くの人々や物事と出会い、様々な体験を積み重ねながら成長していくことを願っております。

今学期も本校教育に対しまして、変わらぬご支援･ご協力をお願い申し上げます。